

# 論說

## 「コドモノ明日研究所」



高浜小児童と地元のまちづくり団体が共同で取り組んでいるプロジェクト「コドモノ明日研究所」で地域課題の解決につながる商品が次々に生み出されている。子どもだからこそ気付きやアイデアを住民団体との連携により形にする活動は児童の地域への愛着につながる。

プロジェクトは、同校と高浜町内外の若者でつくる「高浜明日研究所」が地域課題解決を目的に2020年10月に立ち上げた。毎年

6月(ひ)に高浜小の5、6年生がその年度に取り組むプロジェクトを決め活動を開始している。子どもたちで製造、デザイン、農業、広報などのチームに分かれ開発を進める。その主な活動が町内の農水産物などを

幻の商品だ。22年3月に販売したところ、地元児童や県外の子どもたち層に人気が出て、わずか数ヶ月で完売。商品の改良を行なながら、これ

まで累計800個超を売り上げるヒット商品となつた。UNIKARAを例に見れば、『原料』となるムラサキウニは高浜の海の課題でもある。魚が隠れ産卵に使う藻場を食い尽くすやつ

かいものだ。駆除、廃棄されるウニをどう利活用するからなのではないか。

後押しする仕組みを確立しているのは、このプロジェクトならではの強みだ。

学校で地域素材を活用し商品を開発するのは、一

般的な教科学習とは異な

り、正解がない課題解決型

の学びがある。教科書では、ともすると受け身の学習と

なるが、課題解決型、探究

的な学習は身の回りの社会

にアプローチし、解決策は何なのか自分たちの力で能

動的に考える必要がある。

また地域との協働作業で商

品を生み出す過程は、子どもたちの地元愛を育み自信

にもつながるはずだ。高浜

そのままに、中からLEDランプの光が殻を通過して

決策を考え、形にしている

のが、高浜の海を守るにはどうすべきか、子どもならではの「解答」がランプだ

たほか国内外でメディアに紹介された。これだけ注目

ただ、子どもだけで最終的には、地域と協働で商品開発まで突き詰め

されるのは、地域と協働で商品開発まで突き詰め

ることは難しい。そこを大人の「明日」につながる活動を見守りたい。

## 高浜の地元愛つなげたい

活用した商品開発だ。

た。

活動は県教委の「ふるさと

との学び特別賞」に選ばれ

たがムラサキウニの殻を使つたランプ「UNIKA

たのがムラサキウニの殻を使つたランプ「UNIKA

たほか国内外でメディアに紹介された。これだけ注目

ただ、子どもだけで最終

R A(うにから)」だらう。

されることは、地域と協働で

子どもたちが地元課題の解

決策を考え、形にしている

や地域の力で形になるまで

見守りたい。